

学校教育目標	元気とやる気とやさしさあふれ、自ら行動できる西の台っ子の育成
育成を目指す資質・能力	確かな学力の育成 ＜自ら課題を見付け、進んで考え、解決することのできるこどもの育成＞

	学力状況について	学習状況について
児童生徒の課題	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 県学力定着状況調査(5年)、全国学力・学習状況調査(6年)において全ての教科・観点で県平均、全国平均を上回っている。問題形式では「記述式」が「選択式」「短答式」に比べると低い。	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 理解度は高い児童が多いが、基礎・基本の定着が不十分な児童が各学年一定数存在する。論理的に自分の考えを書くことに課題が見られる。
	これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から) 「授業中の全体での話合いやペア、グループ活動で友達の話をしっかり聴くことができた。」(94%)「授業中の全体での話合いやペア、グループ活動で自分の考えを友だちに伝わるよう工夫して話すことができた。」(85%)と「聴く」ことに対して「話す」ことに課題をもっている児童がいる。	
指導の状況	1 組織的な授業改善の取組状況 ・「自分の考え」「その根拠・理由」などを、話す・書く活動を学習活動の中に取り入れた。 ・1時間あるいは単元の振り返りの際は、視点を明確に提示し、自己の学びを価値付けたり、振り返ったりできるようにした。 ・ペア活動やグループ活動を効果的に取り入れ、考えを表現・交流する場を設定した。 ・板書の構造化を行い、思考を整理したり促したりした。 2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況 ・基礎・基本の定着を図るために、繰り返し行う家庭学習課題を取り入れた。 ・単元末テストの解き直し、類似問題での確認を行った。 ・読書の機会を確保し、定期的な学校図書館利用を促した。	

学力に関する達成指標
・「授業が分かりやすく楽しい」と回答する児童を90%以上にする。 ・単元末テストで各教科80点以上の理解ができている児童の割合を80%以上にする。

	【授業改善】	【家庭・地域との協働】	
今後の 具体的な 取組	〈授業改善のテーマ・重点〉 〈授業改善テーマ〉 考えや思いを伝え合うとともに、自己の学びを調整していく力の育成 〈授業改善の重点〉 こどもの学びの文脈に沿った単元構想、自己調整学習による学び、考えや思いを伝え合う場の工夫		
	〈取組内容〉 ・こどもの学びの文脈に沿った単元構想 ・自己調整学習を取り入れた学び場の設定 ・考え及び根拠を書く時間の確保	〈取組内容〉 ・多様な対話方法の工夫 ・自分の言葉で伝える場の設定	〈家庭・地域の取組内容〉 ・家庭学習の習慣化、取組の徹底 学習時間 学年×10+10分 ・内容の工夫(宿題の個別対応) ・自己調整学習を取り入れた家庭学習
	〈取組指標〉 ・「こどもの学びの文脈に沿った単元を構想し、『自己調整学習の場の設定、考えや根拠を表現する場の設定』などの手立てを工夫して指導できた」と回答する教職員95%以上(教職員アンケート)	〈取組指標〉 ・ペアトークやグループ・全体交流において多様な対話方法(付箋紙やICT機器など)や発言を繋ぐ工夫を取り入れながら「話す」「聴く」指導ができたと回答する教職員100%にする(教職員アンケート)	〈家庭・地域の取組指標〉 ・「お子さんは『授業が分かりやすい楽しい』と思っている」と回答する保護者を95%以上にする。
	〈検証指標〉 「授業中の全体での話合いやペア、グループ活動で友だちの話をしっかり聴くことができた。」を95%以上、「授業中の全体での話合いやペア、グループ活動で自分の考えを友だちに伝わるよう工夫して話すことができた。」を90%以上にする。		〈家庭・地域の検証指標〉
	【授業改善以外の学力向上の取組】 ・一人一人が認められ、自尊感情が高められる共感的な学級経営・集団づくり ・生徒指導の3機能、人権尊重の3視点を意識した授業実践 ・単元末テストにおける誤答分析 ・読書指導 ・小中一貫教育の学習系統表に沿った「学習の約束」の徹底		